

あなたはわたしを愛するか

ヨハネの福音書 21 章 15-19 節

はじめに

今日は、イエス様の復活を記念する「イースター」です。

イエス様は、私たち人間の罪に対する神様の怒りと裁きを受けるために、十字架で死なれました。私たち人間の罪に対する神様の怒りと裁きがあまりにも恐ろしいものであるために、イエス様も取り去ってくださいと祈られたほどでした。

罪とは何でしょうか？神様は私たちに、罪の規準として「律法」を与えてくださいました。その律法は、大きく分けて二つのことを私たちに求めています。①神様を愛すること、②隣人を愛すること、です。その意味で、罪とは、①神様を愛さないこと、②隣人を愛さないこと、です。それはつまり、自分だけを愛していくことです。自己中心に生きて、自分のことだけを考えて生きること、それが、聖書が教える人間の罪の本質です。

この神様を愛さず、隣人を愛さず、自分だけを愛していく生き方が、神様の怒りを買ひ、この世界にあらゆる苦しみや悲しみ、争いや犯罪、病気や死をもたらしたのです。

イエス様は、このような私たち人間の罪を償うために、十字架で死なれたのです。私たちは、自分の罪を決して軽んじてはなりません。それは必ず裁かれるものです。イエス様を救い主と信じて神様の怒りと裁きから救われるか、それともイエス様を救い主と信じないで、自分の身に神様の怒りと裁きを招くか、私たちにはこの二つの道しかないのです。

1. 「あなたはわたしを愛していますか」

イエス様は、十字架で死なれる前日の夜に、十字架に備えて祈られました。そして弟子のペテロにも、「目を覚まして祈っていなさい」と言われました。しかしペテロは、イエス様が必死に祈っている姿を見ずに、自分でも祈らずに眠ってしまったのです。

ペテロは、「たとえ皆がつまずいても、私はつまずきません」(マルコ 14:29)「たとえ、と一緒に死ななければならないとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません」(マルコ 14:31)と力を込めて言い張りました。しかしペテロは、イエス様が捕らえられて、いよいよ十字架に付けられる危険な状況になると、「私はイエスを知らない」「イエスと自分は無関係だ」と三度も言うのです。ペテロはイエス様よりも、自分を愛したのです。それが、生前のイエス様とペテロの最後の瞬間でした。そして、イエス様はそのまま十字架で死なれたのです。ペテロは泣き崩れました。

しかしイエス様は、三日目に墓の中からよみがえり、神の子であることを私たちに示さ

れたのです。そして弟子たちに姿を現し、イエス様を三度も知らないと言って、イエス様との関係を完全に否定したペテロの前にも現れたのです。

死からよみがえられたイエス様は、ペテロにこう言われます。「**ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか**」。そしてさらに二度、「あなたはわたしを愛していますか」と問われたのです。イエス様は全部で三度も、「あなたはわたしを愛していますか」とペテロに問われたのです。これは明らかに、ペテロがイエス様を三度も知らないと言ったことと関係しています。ペテロもあの出来事を思い出して、心を痛めたのです。

イエス様はなぜ三度もペテロに、「あなたはわたしを愛していますか」と問われたのでしょうか？それは、ペテロをもう一度、立ち上がらせるためです。過去の失敗と向き合わせ、それを覆い、もう一度、新しい歩みをさせるためです。

ペテロは、「イエス様を知らない」と三度言いました。しかしイエス様はペテロに、「あなたはわたしを愛していますか」と三度問われて、ペテロに「イエス様を愛しています」という告白を引き出そうとしたのです。三度の「あなたを知らない」という言葉を、三度の「あなたを愛します」という言葉で上塗りしようとしたのです。そして「あなたを知らない」という過去の失敗を覆い、もう一度、新しい歩みをさせようとしたのです。

イエス様はこの時ペテロを、「ヨハネの子シモン」と呼びました。この呼び方は、イエス様とペテロが最初に出会った時の呼び方です（ヨハネ1：42）。「ペテロ」というのは、イエス様が付けたあだ名です。イエス様がこの時ペテロを、最初に出会った時の「ヨハネの子シモン」と呼んだのは、ペテロとの関係をもう一度、新しく始めようとされたからではないでしょうか。過去の失敗をすべて忘れて、初めて出会った時のように、新しくやり直そうとされたのではないのでしょうか。それは、ペテロをもう一度、立ち上がらせるため、新しい歩みをさせるためです。

2.「わたしの子羊を飼いなさい」「わたしの羊を牧しなさい」「わたしの羊を飼いなさい」

しかしペテロは、イエス様の「あなたは、わたしを愛していますか」という問いかけに、以前のように力を込めて、「はい、あなたを愛しています」とは言えません。ペテロは、「**はい、主よ。私**があなたを愛していることは、**あなたがご存じです**」と言うことしかできません。

ペテロは大きな挫折を経験し、自分を信じられなくなっているのです。イエス様に対する自分の愛が信じられなくなっているのです。以前も、自分はイエス様を愛していると思っていました。しかし、いざとなるとイエス様よりも自分を愛してしまう、そんな自分の弱さを嫌というほど味ったのです。ですからはっきりと「はい、あなたを愛しています」と言えなかったのです。

しかしイエス様は、そのようなペテロに対して、三度こう言われます。「**わたしの子羊を**

飼いなさい」「わたしの羊を牧しなさい」「わたしの羊を飼いなさい」。

ペテロというあだ名は、「岩」という意味です。イエス様はペテロに、「**わたしはこの岩岩の上に、わたしの教会を建てます**」(マタイ 16:18)と言われ、ペテロを教会の指導者とする約束されました。しかしペテロは、イエス様を三度も知らないと言い、大きな挫折を味わったのです。そして、自信をなくし、自分を信じられなくなっていたのです。

そのようなペテロにイエス様は、「わたしの子羊を飼いなさい」「わたしの羊を牧しなさい」「わたしの羊を飼いなさい」と言われて、ペテロを牧師として任命されたのです。イエス様は、大きな失敗をしたペテロから教会の指導者とする約束を取り上げるのではなく、なおもその約束通り、牧師として任命されるのです。

しかもイエス様は、「わたしの子羊」「わたしの羊」と言われます。イエス様は、御自身のものをペテロに委ねられたのです。イエス様は、御自分の羊、クリスチャンたちを大切にし、愛しておられます。その御自分の大切に、愛しているクリスチャンたちを、ペテロの手に委ねられたのです。

私たちは、自分の大切なものを誰かに委ねる時、その人を信頼しなければなりません。その人を信じることができなければ、自分の大切なものを委ねることはできません。イエス様は、ペテロを信じて、御自分の羊を委ねられたのです。三度も自分を知らないと言ったペテロに、イエス様は御自分の大切なものを委ねられたのです。

使徒パウロは、I コリント 13:7で、「愛」についてこのように言っています。「**愛は…すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます**」。イエス様はペテロを愛しておられました。だからこそ、ペテロを信じて、御自分の大切な羊を委ねられたのです。

ペテロは、自信をなくし、自分を信じられなくなっていました。はっきりと「あなたを愛しています」と言えないほどでした。しかし、それでもイエス様はペテロを信じ、ペテロに「わたしの羊を牧しなさい」と、御自分の大切なものを委ね、任せてくださったのです。

3.「わたしに従いなさい」

イエス様は続けてペテロにこう言われます。「**まことに、まことに、あなたに言います。あなたは若いときには、自分で帯をして、自分の望むところを歩きました。しかし年をとると、あなたは両手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます**」。「わたしに従いなさい」。

イエス様は、ペテロの失敗を覆い、ペテロに「わたしの羊を牧しなさい」と御自分の大切なものを委ねられました。ペテロの大きな失敗にもかかわらず、なおも教会の指導者として任命されたのです。イエス様はペテロを赦し、徹底的に信じました。

しかしイエス様は、ペテロにも求められました。それは、イエス様を愛することです。イエス様を愛することとは、イエス様に従うことです。自分の望むように生きるのではなく、イエス様が望むように生きる、神様が望むように生きることです。

それはまさにイエス様の生き方でした。イエス様は、十字架で死なれる前日の夜に、こう祈られました。「**アバ、父よ、あなたは何でもおできになります。どうか、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの望むことではなく、あなたがお望みになることが行なわれますように**」(マルコ 14:36)。イエス様はペテロに、イエス様のように生きること、自分が望むようではなく、神様が、またイエス様が望むように生きることを求められたのです。それこそが、イエス様を愛する生き方なのです。

おわりに

今日はイースターです。イエス様の復活を記念する日です。死からよみがえられたイエス様は、私たちをもよみがえらせてくださいます。イエス様が再び来られる時に、私たちの肉体をよみがえらせてくださいます。

しかし、それだけではありません。私たちを霊的に死んだ状態から新しく生まれさせてくださいます。また、私たちを様々な挫折から、失敗から、悲しみから立ち直らせてくださいます。イエス様の死からよみがえらせた神様の力は、私たちを何度も立ち上がらせてくださいます。

イエス様はペテロに、御自分の羊を委ねられました。私たち一人ひとりも、イエス様から様々なものを委ねられています。死からよみがえられたイエス様は、このように言われました。「**わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています**」(マタイ 28:18)。この世界のすべてのものは、イエス様のものです。牧師や長老は、イエス様から教会を委ねられています。親は子どもを委ねられています。そして私たち一人ひとは、この地上を管理し、文化を発展させることを委ねられています。またそのために、自分自身の身体を、才能や能力を、時間を、財産を、イエス様から委ねられています。

イエス様は、私たちを愛し、私たちを信じて、それらを委ねてくださっています。私たちはそれらを、自分の望むように管理していくのではなく、イエス様が望むように管理していかなければなりません。イエス様への愛をもって管理していかなければなりません。

その中で私たちは何度も挫折し、失敗も犯します。しかし私たちのために十字架で死に、死からよみがえられたイエス様は、私たちを赦し、私たちを何度も立ち上がらせてくださいます。

私たちは自分を信じるよりも、イエス様を信じなければなりません。イエス様こそ、私よりも私のことをよくご存じの方です。愛は信じることです。私たちを信じてあらゆるものを委ねてくださったイエス様を、私たちも信じて、自分自身を委ねていきましょう。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは御子イエス様によって私たちの罪を贖い、イエス様を死からよみがえらせられました。あなたは、御子イエス様を通して、私たちにあらゆるものを委ねてくださっています。私たちは、あなたを愛するよりも自分を愛し、何度も挫折し、あなたの御前に罪を

犯します。しかしイエス様の十字架と復活は、私たちを何度も立ち上がらせてます。イエス様の十字架と復活は、私たちに何度も赦しと立ち上がる力を与えてくださいます。

どうか私たちがあなたの愛に答えて、あなたを愛して生きることができますように。私たちを信じてくださるあなたに答えて、私たちもあなたを信じ、あなたに委ねていくことができますように。

私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。